表 3·16　入室の条件

入室の条件	N	%
特になし	48	23.8
記載なし	39	19.3
処置（and/or 手術）単独	39	19.3
他病棟との相対的な管理によるもの（特に入室するという基準はない）	18	8.9
症状（or 病名）and 処置	13	6.4
症状（or 病名）単独と処置（and/or 手術）単独	10	5.0
処置（and/or 手術）単独と症状（or 病名）and 処置	5	2.5
症状（or 病名）and モニタリング	5	2.5
症状（or 病名）単独と処置（and/or 手術）単独と症状（or 病名）and 処置	4	2.0
症状（or 病名）単独	3	1.5
患者の一般状態（治療効果が期待できる、終末期でない）	3	1.5
管理上（一般病棟で管理困難、一般病床が満床）	3	1.5
症状（or 病名）単独と処置（and/or 手術）単独と症状（or 病名）and 手術	2	1.0
症状（or 病名）単独と症状（or 病名）and 処置	2	1.0
処置（and/or 手術）単独と症状（or 病名）and 手術	2	1.0
症状（or 病名）and 手術	2	1.0
症状（or 病名）単独と処置（and/or 手術）単独と症状（or 病名）and モニタリング	1	0.5
症状（or 病名）単独と処置（and/or 手術）単独と患者の一般状態（治療効果が期待できる、終末期でない）	1	0.5
処置（and/or 手術）単独と他病棟との相対的な管理によるもの（特に入室するという基準はない）	1	0.5
症状（or 病名）and モニタリングと管理上（一般病棟で管理困難、一般病床が満床）	1	0.5
合計	202	100

表 3-17　その他の入室条件（記入事項の一部抜粋）

分類	その他の入室条件(記入事項)
1	上記条件のみを算定対象としているが、くも膜下出血急性期で意識障害がない症例は必ず入室する。（その後大手術が行われ、大手術後から算定する）
1	消化管出血（急性で重症）
2	ＣＨＤＦの装置が必要　レスピレーターが必要　セントラル形式のモニターが必要　点滴ライン（輸液ポンプ４台、シリンジ式輸液ポンプ１台）の設備　スワンガンツカテーテルモニターリング機器
2	１）呼吸器が必要でかつ循環動態が不安定で大量のカテコールアシンを使用している。２）ＩＡＢＰなどの補助装置を使用又は必要としている。
2	術後患者については１．脳外科（開頭）、開胸の手術は全例　２．開腹手術は侵襲の大な症例　３．その他の手術は手術時間６時間以上、緊急などの条件を考慮する。
4	脳動脈破裂によるクモ膜下出血の術前
4	ＰＴＣＡ後の病態を判断し、全身状態が安定するまで入室させる。
4	ＩＡＢＰ、ＰＣＰＳ、ＣＨＤＦを必要とする患者　呼吸器管理を必要とする患者（特に重圧式の場合など）
5	抗癌剤の治験患者で全身状態の急激な変化が予想され厳生な観察が必要な患者
5	・大動脈瘤切迫破裂や急性大動脈解離など、急変の可能性があり、常に状態をモニターしておくべき症例
6	終末期でなければ上記条件患者はほぼ入室させている
6	絶対的な規定はない。上記の条件を満足する治療効果が期待できる患者であれば利用できる。
7	一般病床が満床の場合は、上記疾患でなくても入室を認めることがある。極力少数
7	絶対条件はないが、逆に上記の条件であっても、４床が満床であれば入室は断わっている。
8	・必ず入室という条件は設定していない。（・基本的に主治医がＩＣＵ管理を必要と判断すれば、ＩＣＵが満床か、ｔｅｒｍｉｎａｌの状態でない限りはＩＣＵ入室を断ることはないようにする）
8	明確な設定条件はない。

3）特定集中治療室において実施される処置に関して

この解析のデータとなったのは 186 病院の調査対象者 6,605 名である。186 病院において特定集中治療室管理料を算定する患者全員に各入室患者の入室期間を通じて、①血液ガス②血清電解質③血糖値④気管内吸引の測定・実施回数が最高となった日時の回数を記録してもらった。したがって、これらの測定された入室日は、その測定内容によって、異なった日時となっている可能性がある。

各患者の４種類の処置、検査、測定の最高値に関して、その平均値、最小値、最大値を表表 3-18 に示した。平均値は、測定に関しては、約 3 回であり、吸引は 6 回程度であったが、多くの患者が 0 回であった。また各値の最大値の分布に関しては、図 3-6 に示した。

表 3-18　ICU 患者に実施された検査および気管内吸引回数

測定・実施回数の最高値(回/日)	平均値	最小値	最大値	標準偏差	N
血液ガス	3.3	0	28	3.41	6508
血清電解質	3.3	0	28	3.31	6539
血糖値	3.4	0	28	3.47	6506
気管内吸引	6.1	0	99	9.28	6361

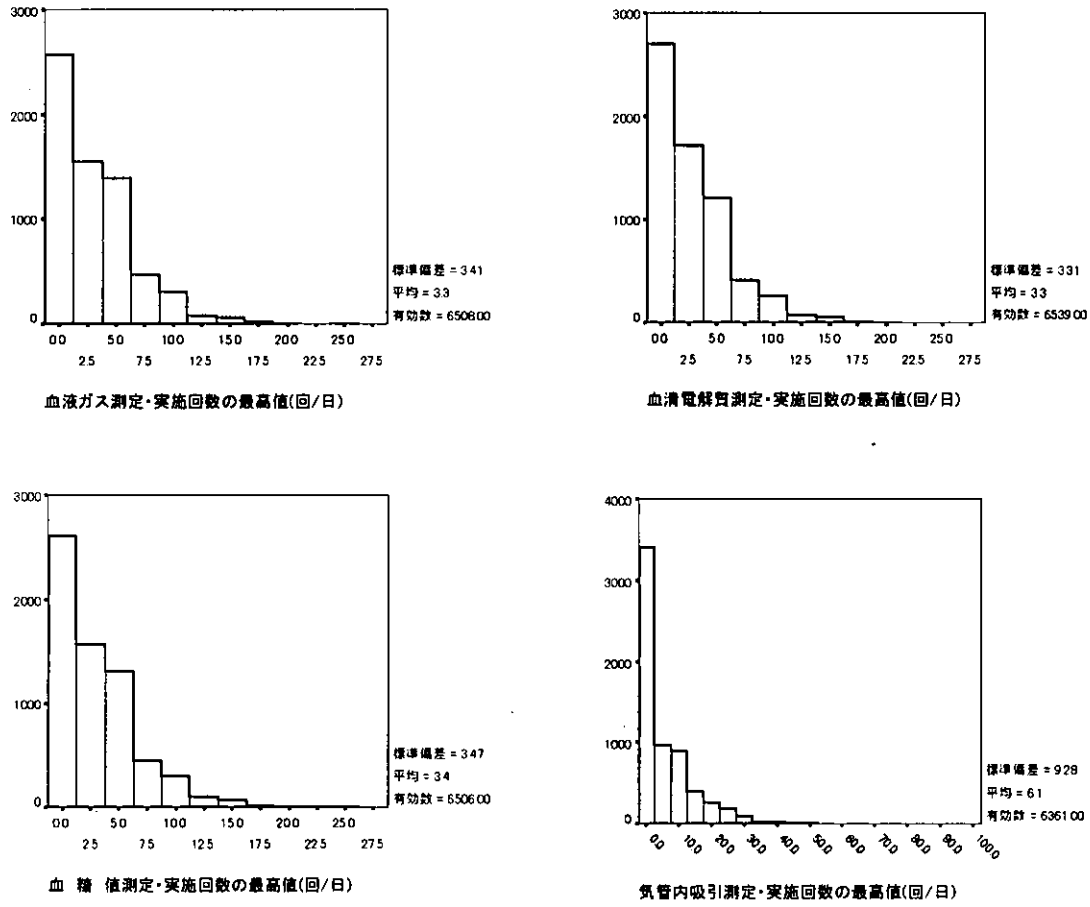


図 3-6　測定・吸引の各患者の入室期間内の最大値の分布

4）調査対象として登録された患者の状態

①調査対象患者の属性と収集データの特徴

入力システムに登録された患者は、174 病院のデータであり、その人数は、5,886 名であった。

②性別および年齢

男性が 3,615 名（61.4%）で女性 2,271 名（38.6%）を示していた。年齢は、平均が 61.77 歳で、最も多いのが 73 歳であった。図 3-7 から明らかなように 65 歳以上の高齢者の割合が全患者の半数を超えていた。

表 3-19　性別

	度数	%	累積%
男性	3615	61.4	61.4
女性	2271	38.6	100
合計	5886	100	

表3-20　入室患者の年齢特性

年齢	
平均値	61.8
中央値	67
最頻値	73
標準偏差	20.8
最小値	0
最大値	103

N=5886

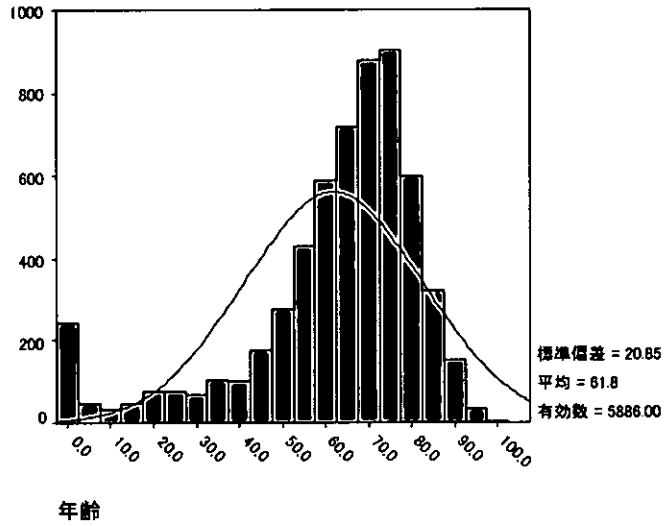


図3-7　入室した患者の年齢

③入室および退室状況

これらの患者は、手術室からの入室が最も多く、全体の 45.6%で、次いで外来 27.1%、他の病棟から 18.7%が入室していた。

退室の状況は、他の病棟に77.6%が移動し、約5%が死亡によって退室していた。

表3-21　入室前の状況

入室事態	N	%	累積%
外来から	1667	28.3	28.3
手術室から	2603	44.2	72.5
他病棟から	1109	18.8	91.4
他院から	438	7.4	98.8
不明	69	1.2	100
合計	5886	100	

表3-22　退室時の状況

退室事態	N	%	累積%
未退室	791	13.4	13.4
他病棟へ	4535	77.0	90.5
手術室へ	36	0.6	91.1
他院へ	76	1.3	92.4
自宅へ	74	1.3	93.6
死亡	305	5.2	98.8
不明	69	1.2	100
合計	5886	100	

④手術の有無

全入室患者のうち、3253名（55.3%）が手術を受けて、入室していた。

表3-23　手術の有無

	N	%	累積%
なし	2633	44.7	44.7
あり	3253	55.3	100
合計	5886	100	

⑤入室の基準

対象となった患者の入室基準について特定集中治療室管理料の算定対象として挙げられている、ア．意識障害又は昏睡　イ．急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪　ウ.急性心不全（心筋梗塞を含む。）エ．急性薬物中毒　オ．ショック　カ．重篤な代謝障害（肝不全、腎不全,重症糖尿病等）　キ．広範囲熱傷ク．大手術後　ケ．救急蘇生後　コ．その他外傷、破傷風等で重篤な状態から該当するものを選択した結果、表3-24のようになった。

最も多かったのは「大手術後」で、2,809名（47.7%）であった。次に「急性心不全」1,320名（22.4%）、「意識障害又は昏睡」860名（14.6%）、「急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪」729名（12.4%）と続いていた。

ただし、これらの基準に該当しない患者も252名存在した。

表3-24　判断基準の個数

判断基準個数	N	%	累積%
0個	252	4.3	4.3
1個	4606	78.3	82.5
2個	764	13.0	95.5
3個	186	3.2	98.7
4個	58	1.0	99.7
5個	16	0.3	99.9
6個	4	0.1	100
合計	5886	100	

表3-25　該当した判断基準（複数回答を含む）（N=5886）

	N	%
意識障害又は昏睡	860	14.6
急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪	729	12.4
急性心不全	1,320	22.4
急性薬物中毒	54	0.9
ショック	441	7.5
重篤な代謝障害	286	4.9
広範囲熱傷	31	0.5
大手術後	2,809	47.7
緊急蘇生後	163	2.8
その他外傷、破傷風等で重篤な状態	335	5.7

5）入室日の患者の状態に関する調査

①入室日の患者数について

特定集中治療室（以下、ICUと略す）において調査対象となったシステムに患者登録された患者5,886名のうち、調査初日が未算定日の患者と調査初日に患者評価を行わなかった患者を除いた調査期間中の初日のデータがある5,358名の患者の初日のデータを入室日のデータとし、患者の状態に関する分析をした。

②APACHE Ⅱのデータがない患者について

熱傷により入室した患者は、22名、16歳未満の患者で入室はした患者は296名であり、これらの患者はAPACHE Ⅱを算出する際の除外要件となっているため収集されていなかった。この結果からは、ICUに入室した患者に0歳児がかなり存在していることがわかる。

入室初日すなわち入室してから24時間以内にAPACHE Ⅱのデータが存在する5,358名のうち、これらの条件のいずれかを満たした318名は、APACHE Ⅱのデータは存在しないことになる。さらにAPACHE Ⅱの評価項目の検査値については、毎日測定していない病院が多く、「グラスコーマスケール」データは、一般的には、ICUでは調査されないため、入力できないとの質問が調査期間中に30病院もよせられたため、欠損値処理を実施した。この結果、5,358名のうち2,039名（38.1%）分のAPACHE Ⅱのデータが欠損値であった。

表3-26　熱傷の有無

	N	%	累積%
いいえ	5336	99.6	99.6
はい	22	0.4	100
合計	5358	100	

表3-27　16歳未満の患者の分布

	N	%	累積%
0歳	137	46.3	46.3
1歳	40	13.5	59.8
2歳	30	10.1	69.9
3歳	15	5.1	75.0
4歳	4	1.4	76.4
5歳	9	3.0	79.4
6歳	8	2.7	82.1
7歳	4	1.4	83.4
8歳	6	2.0	85.5
9歳	2	0.7	86.1
10歳	10	3.4	89.5
11歳	2	0.7	90.2
12歳	6	2.0	92.2
13歳	10	3.4	95.6
14歳	5	1.7	97.3
15歳	8	2.7	100
合計	296	100	

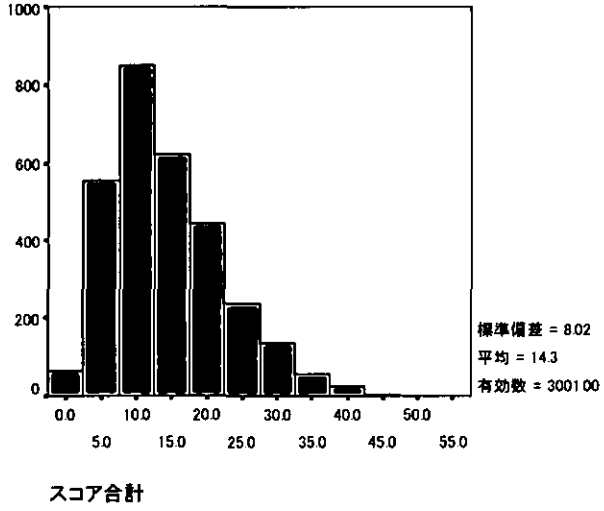


図3-8　APACHE II スコア分布

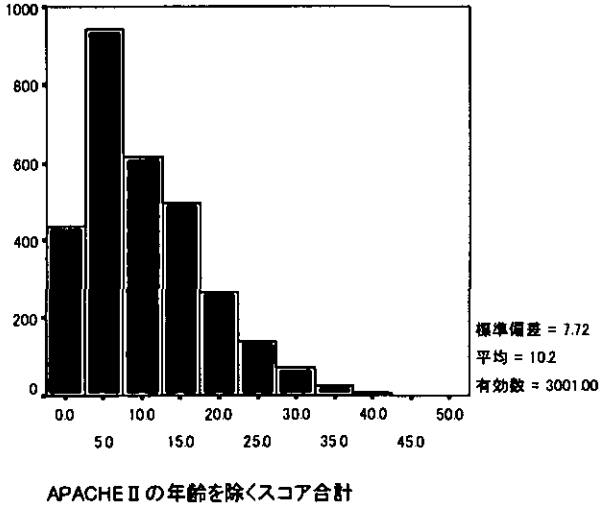


図3-9　APACHE II スコア分布（年齢を除く）

表3-28　APACHE II スコア

	平均値	最小値	最大値	標準偏差	N
APACHE II スコア合計	14.3	0	57	8.02	3001
APACHE II（年齢を除くスコア）	10.2	0	52	7.72	3001

TOTAL_S スコア合計

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	13	.2	.4	.4
	1	10	.2	.3	.8
	2	41	.8	1.4	2.1
	3	59	1.1	2.0	4.1
	4	56	1.0	1.9	6.0
	5	125	2.3	4.2	10.1
	6	134	2.5	4.5	14.6
	7	182	3.4	6.1	20.7
	8	192	3.6	6.4	27.1
	9	166	3.1	5.5	32.6
	10	182	3.4	6.1	38.7
	11	168	3.1	5.6	44.3
	12	141	2.6	4.7	49.0
	13	127	2.4	4.2	53.2
	14	132	2.5	4.4	57.6
	15	133	2.5	4.4	62.0
	16	119	2.2	4.0	66.0
	17	114	2.1	3.8	69.8
	18	96	1.8	3.2	73.0
	19	88	1.6	2.9	75.9
	20	91	1.7	3.0	78.9
	21	88	1.6	2.9	81.9
	22	83	1.5	2.8	84.6
	23	73	1.4	2.4	87.1
	24	53	1.0	1.8	88.8
	25	39	.7	1.3	90.1
	26	33	.6	1.1	91.2
	27	38	.7	1.3	92.5
	28	35	.7	1.2	93.7
	29	35	.7	1.2	94.8
	30	26	.5	.9	95.7
	31	25	.5	.8	96.5
	32	15	.3	.5	97.0
	33	21	.4	.7	97.7
	34	15	.3	.5	98.2
	35	6	.1	.2	98.4
	36	9	.2	.3	98.7
	37	6	.1	.2	98.9
	38	8	.1	.3	99.2
	39	6	.1	.2	99.4
	40	5	.1	.2	99.6
	41	4	.1	.1	99.7
	42	3	.1	.1	99.8
	44	2	.0	.1	99.9
	47	3	.1	.1	100.0
	57	1	.0	.0	100.0
	合計	3001	56.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	2357	44.0		
合計		5358	100.0		

NAPA　APACHE II の年齢を除くスコア合計

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	.00	128	2.4	4.3	4.3
	1.00	88	1.6	2.9	7.2
	2.00	223	4.2	7.4	14.6
	3.00	183	3.4	6.1	20.7
	4.00	203	3.8	6.8	27.5
	5.00	210	3.9	7.0	34.5
	6.00	184	3.4	6.1	40.6
	7.00	161	3.0	5.4	46.0
	8.00	145	2.7	4.8	50.8
	9.00	125	2.3	4.2	55.0
	10.00	123	2.3	4.1	59.1
	11.00	114	2.1	3.8	62.9
	12.00	108	2.0	3.6	66.5
	13.00	108	2.0	3.6	70.1
	14.00	114	2.1	3.8	73.9
	15.00	107	2.0	3.6	77.4
	16.00	92	1.7	3.1	80.5
	17.00	76	1.4	2.5	83.0
	18.00	68	1.3	2.3	85.3
	19.00	63	1.2	2.1	87.4
	20.00	47	.9	1.6	89.0
	21.00	53	1.0	1.8	90.7
	22.00	35	.7	1.2	91.9
	23.00	46	.9	1.5	93.4
	24.00	23	.4	.8	94.2
	25.00	35	.7	1.2	95.4
	26.00	15	.3	.5	95.9
	27.00	21	.4	.7	96.6
	28.00	23	.4	.8	97.3
	29.00	12	.2	.4	97.7
	30.00	16	.3	.5	98.3
	31.00	10	.2	.3	98.6
	32.00	10	.2	.3	98.9
	33.00	9	.2	.3	99.2
	34.00	7	.1	.2	99.5
	35.00	4	.1	.1	99.6
	36.00	5	.1	.2	99.8
	38.00	1	.0	.0	99.8
	39.00	2	.0	.1	99.9
	41.00	3	.1	.1	100.0
	52.00	1	.0	.0	100.0
	合計	3001	56.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	2357	44.0		
合計		5358	100.0		

6）診断名

診断名については、主な診断名について３つまでICD10での入力が行なわれた。これらを「章」毎にまとめると、以下のように、感染症および寄生虫症が最も多く、次いで循環器系、このあとに消化器系、新生物と続くが、ICU患者に特有の診断はなかった。

対象となった5,358名の診断名は以下のような診断名が記録でつけられていた。最も多かった診断名は不安定狭心症（I20.0）で292名（1.82%）であった。次に急性心筋梗塞，詳細不明（I21.9）で262名（1.63%）、うっ血性心不全（I50.0）256名（1.59%）、狭心症，詳細不明（I20.9）223名（1.39%）、心不全，詳細不明（I50.9）195名（1.21%）、陳旧性心筋梗塞（I25.2）167名（1.04%）、本態性（原発性＜一次性＞）高血圧（症）（I10）165名（1.03%）、前壁の急性貫壁性心筋梗塞（I21.0）162名（1.01%）、大動脈の解離［各部位］（I71.0）114名（0.71%）と続く。

なお、複数診断名をもつ患者は、2個が1,446名（27.0%）、3個が875名（16.3%）で、合計で43.3%であった、多くの患者が複数の診断名を有していることがわかった（表3-30）。

表3-29 追加診断名の章別発生度数（のべ）

章番号	内容	件数
9	循環器系の疾患	4020
2	新生物	1169
10	呼吸器系の疾患	619
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	531
11	消化器系の疾患	518
17	先天奇形、変形および染色体異常	278
14	尿路性器系の疾患	275
4	内分泌、栄養および代謝疾患	268
1	感染症および寄生虫症	251
18	症状、徴候および異常臨床／検査所見で他に分類されない	183
6	神経系の疾患	176
13	筋骨格系および結合組織の疾患	87
3	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	52
5	精神および行動の障害	42
21	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	41
99	不明	17
16	1周産期に発生した病態	11
15	妊娠、分娩および産じょく	7
12	皮膚および皮下組織の疾患	5
7	眼および付属器の疾患	3
8	耳および乳様突起の疾患	1
	合計	8554

表3-30　複数診断名を持つ患者

診断名の個数	N	%
1個	3037	56.7
2個	1446	27.0
3個	875	16.3
合計	5358	100

4.入室日の患者の状態（5,358名データ）の概要

1）患者の状態、入室判断基準とAPACHEⅡの年齢を除くスコア合計点の関係

入室日の患者の状態評価のデータ（5,358 名分）から、患者の状況として「寝返り」、「座位保持」、「移乗」がすべて自立であれば「自立」とし、どれか1項目でも介助を必要とする場合を「介助あり」とした。

また、同様に処置に関する質問項目、「心電図モニター」、「動脈圧測定」、「中心静脈圧測定」、「肺動脈圧測定」、「人工呼吸器の装着」、「気管内挿管」、「気管切開」、「特殊な治療法」、「輸液ポンプの使用」、「シリンジポンプの使用」、「接続ドレナージの使用」、「輸血又は血液製剤の使用」、「蘇生術の施行」の12項目のうちどれか1つでも処置されている患者を「処置あり」とした。

患者の入室の際の判断基準に関しては、「ア．意識障害又は昏睡」、「イ．急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪」、「ウ.急性心不全（心筋梗塞を含む。）」、「エ．急性薬物中毒」、「オ．ショックカ．重篤な代謝障害（肝不全、腎不全,重症糖尿病等）」、「キ．広範囲熱傷」、「ク．大手術後」、「ケ．救急蘇生後」、「コ．その他外傷、破傷風等で重篤な状態」の10の判断基準のうちどの基準にも該当しなっかった患者を判断基準「なし」とした。

APACHEⅡのスコアの合計点数（ここでは年齢を除くスコア合計点）に関しても、16歳未満または熱傷の患者を「非該当」、非計測・未測定値のため評価項目に欠損値がありスコアの合計点が出ないものに関しては「欠損」、スコアの合計点正常値のものは「正常値」、一つでも異常値があるものを「1以上」とし、患者を分類した。

以下の3種類の特性をもった患者群は、群毎に詳細な分析をした。

①患者の状況に関する項目がすべて自立していた患者95名

②APACHEⅡのスコアの合計点数が正常（0点）の患者128名

③入室の判断基準がない患者196名

表 3-31　患者の状況と入室判断基準の関係

		入室の判断基準					
		なし		あり		合計	
		N	%	N	%	N	%
患者の状態	N	10	(10.5)	85	(89.5)	95	(100)
自立	%	(5.1)		(1.6)		(1.8)	
患者の状態	N	186	(3.5)	5077	(96.5)	5263	(100)
介助あり	%	(94.9)		(98.4)		(98.2)	
合計	N	196	(3.7)	5162	(96.3)	5358	(100)
	%	(100)		(100)		(100)	

表 3-32　患者の状態と APACHE II スコア合計点数の関係

		APACHE II のスコアの合計点数									
		非該当		欠損		正常値		1以上		合計	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
患者の状態	N	1	(1.1)	49	(51.6)	7	(7.4)	38	(40.0)	95	(100)
自立	%	(0.3)		(2.4)		(5.5)		(1.3)		(1.8)	
患者の状態	N	314	(6.0)	1993	(37.9)	121	(2.3)	2835	(53.9)	5263	(100)
介助あり	%	(99.7)		(97.6)		(94.5)		(98.7)		(98.2)	
合計	N	315	(5.9)	2042	(38.1)	128	(2.4)	2873	(53.6)	5358	(100)
	%	(100)		(100)		(100)		(100)		(100)	

表 3-33　入室判断基準と APACHE II スコア合計点数の関係

		APACHE II のスコアの合計点数									
		非該当		欠損		正常値		1以上		合計	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
入室基準	N	7	(3.6)	88	(44.9)	4	(2.0)	97	(49.5)	196	(100)
なし	%	(2.2)		(4.3)		(3.1)		(3.4)		(3.7)	
入室基準	N	308	(6.0)	1954	(37.9)	124	(2.4)	2776	(53.8)	5162	(100)
あり	%	(97.8)		(95.7)		(96.9)		(96.6)		(96.3)	
合計	N	315	(5.9)	2042	(38.1)	128	(2.4)	2873	(53.6)	5358	(100)
	%	(100)		(100)		(100)		(100)		(100)	

2）患者の状態が「自立」の患者のプロフィール

入室日の患者の状態評価のデータにおいて、患者の状況として「寝返り」、「座位保持」、「移乗」がすべて自立である患者のプロフィールを示した。

(1) 性別

男性が 63 名（66.3%）、女性が 32 名（33.7%）であった。

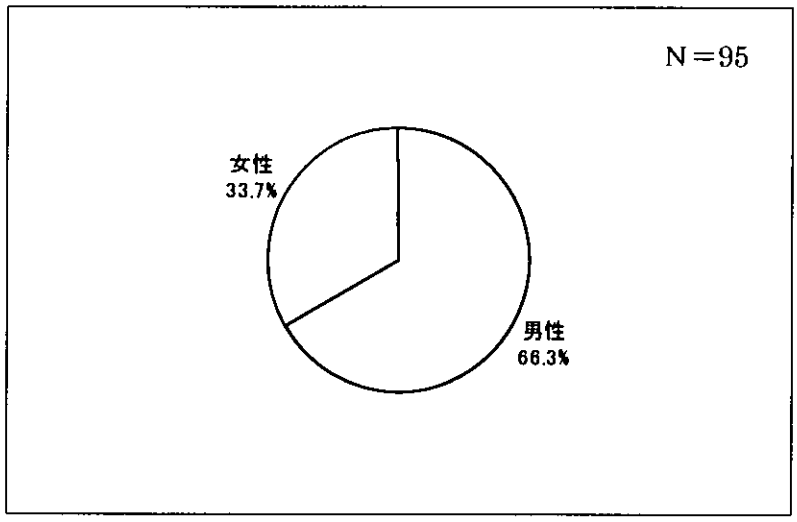


図 3-10　患者の状態が「自立」の患者の性別

(2) 年齢構成

年齢構成は 10 代が 2 名（2.1%）、20 代が 4 名（4.2%）、30 代が 3 名（3.2%）、40 代 8 名（7.1%）、50 代が 22 名（23.2%）、60 代が 27 名（28.4%）、70 代が 22 名（23.2%）、80 代が 7 名（7.4%）、90 代以上が 0 名（0%）で、60 代が最も多かった。

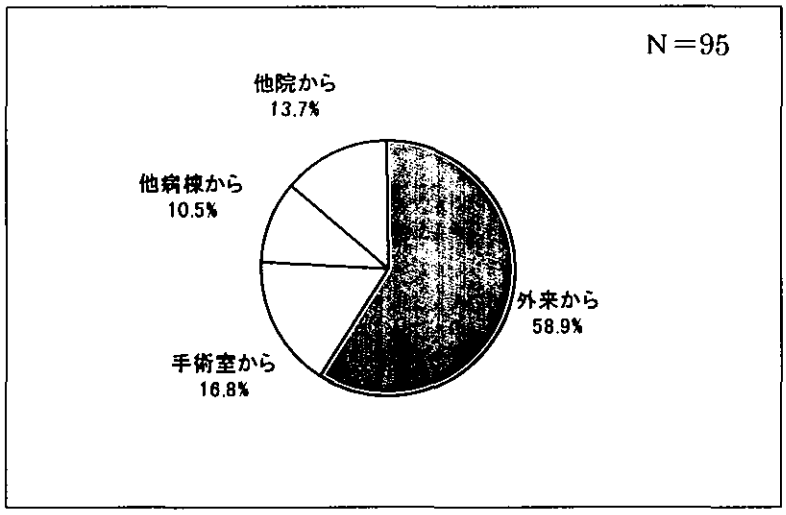
表 3-34　患者の状態が「自立」の患者の年齢構成

	人数	(%)
10代	2	2.1
20代	4	4.2
30代	3	3.2
40代	8	8.4
50代	22	23.2
60代	27	28.4
70代	22	23.2
80代	7	7.4
90代以上	0	0
合計	95	100

(3) 入室経路

入室経路については、「外来から」が最も多く、56 名（58.9%）であった。以下、「手術室から」16 名（16.8%）、「他院から」13 名（13.7%）、「他病棟から」10 名（10.5%）であった。

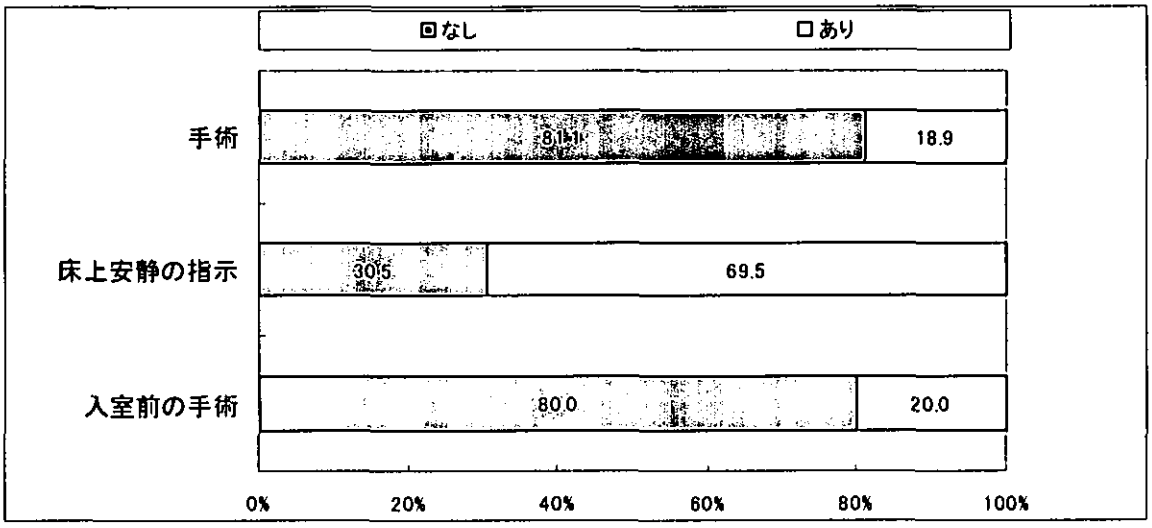
図 3·11　患者の状態が「自立」の入室経路



(4) 手術の有無、床上安静の指示の有無、入室前の手術の有無について

「手術」については「あり」が 18 名（18.9%）であった。「床上安静の指示」については「あり」が 66 名（69.5%）、「入室前の手術」については、「あり」が 19 名（20.0%）であった。

図3·12　患者の状態が「自立」の手術の有無、床上安静の指示の有無、入室前の手術の有無入室経路(N＝95)



(5) 処置の数

患者に行われている処置の数について最も多かったパターンは、「2つ」であり39名(41.1%)であった。次いで、「1つ」24名(25.3%)、「3つ」15名(15.8%)、「4つ」7名(7.4%)、「5つ」5名(5.3%)と続いた。最も処置の数が多かった患者は、「7つ」3名(3.2%)であった。一方、「処置なし」は2名(2.1%)であった。

表3-35 処置の数(自立の患者)

	N	(%)
処置なし	2	2.1
1つ	24	25.3
2つ	39	41.1
3つ	15	15.8
4つ	7	7.4
5つ	5	5.3
7つ	3	3.2
合計	95	100

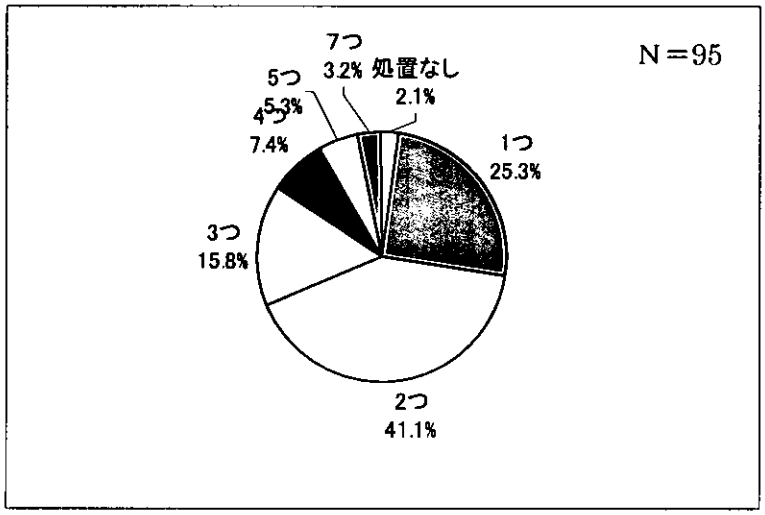


図3-13 処置の数(自立の患者)

(6) APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）について

APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）について、平均値は 5.8 点で、最大値は 21 点であった。また、正常値である 0 点も 7 名（15.9%）いた。

スコアが高い順に、6 点が 7 名（15.6%）、2 点が 7 名（15.6%）、4 点が 5 名（11.1%）、5 点が 4 名（8.9%）、14 点が 3 名（6.7%）、3 点が 2 名（4.4%）、9 点が 2 名（4.4%）、11 点が 2 名（4.4%）、16 点が 2 名（4.4%）、1 点が 1 名（2.2%）、7 点が 1 名（2.2%）、12 点が 1 名（2.2%）、21 点が 1 名（2.2%）という分布になっていた。

平均値	最小値	最大値	標準偏差	N
5.7	0	21	5.11	45

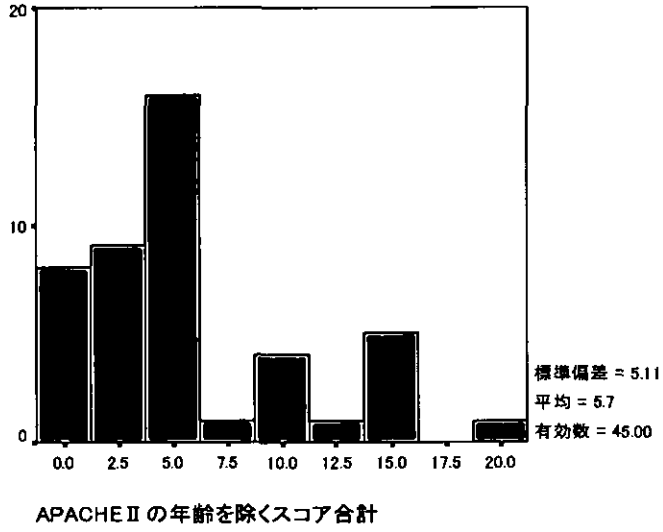


図 3-14　APACHEⅡスコア合計点数（自立の患者）

(7) 判断基準について

これらの患者の入室基準については、10 の判断基準のうち 1 個満たした患者は 85 名中、82 名で 86.3%であった。また、2 個の基準を満たしている患者は 3 名で 3.2%であった。一方、基準が無い患者は、10 名で 10.5%であった。

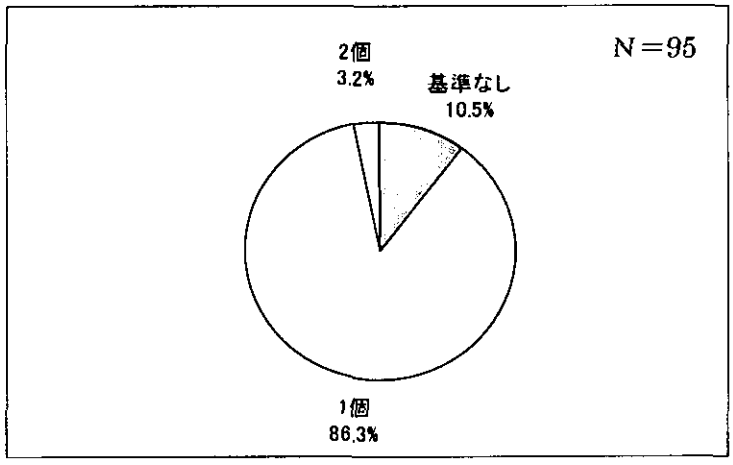


図3-15　患者の状態が「自立」の患者の判断基準の種類

3）APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）が０の患者のプロフィール

入室日の患者のAPACHEⅡスコアデータにおいて、APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）が０点であった患者のプロフィールを示す。

(1) 性別

男性が104名（81.4%）、女性が24名（18.6%）であった。

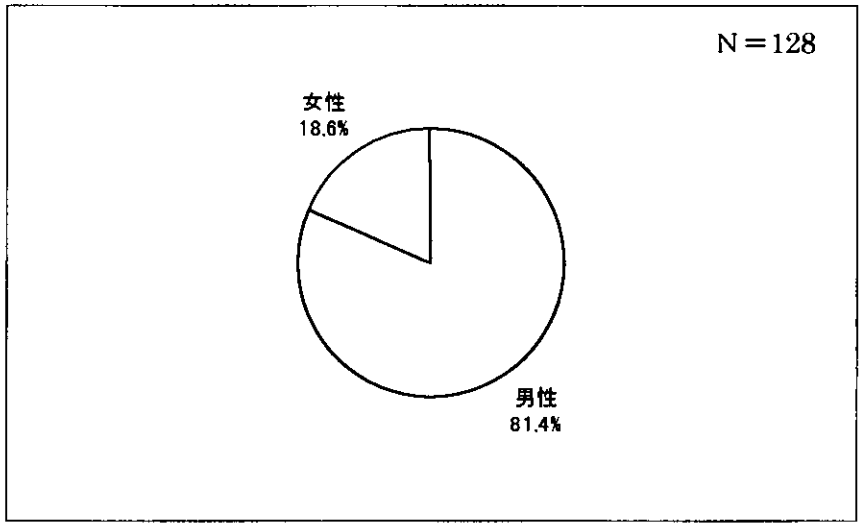


図3-16　APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）が０の患者の性別

(2) 年齢構成

年齢構成は10代が3名（2.3%）、20代が4名（3.1%）、30代が4名（3.1%）、40代が7名（5.5%）、50代が26名（20.3%）、60代が37名（28.9%）、70代が37名（28.9%）、80代が9名（7.0%）、90代以上が1名（1.0%）で、60代、70代が最も多かった。

表3-36　APACHEⅡスコア合計点数（年齢点を除く）が０の患者の年齢構成

	人数	(%)
10代	3	2.3
20代	4	3.1
30代	4	3.1
40代	7	5.5
50代	26	20.3
60代	37	28.9
70代	37	28.9
80代	9	7.0
90代以上	1	1
合計	128	100

(3) 入室経路

入室経路については、「外来から」が最も多く、21 名（16.4%）であった。以下、「手術室から」68 名（53.1%）、「他病棟から」27 名（21.1%）、「他院から」12 名（9.4%）であった。

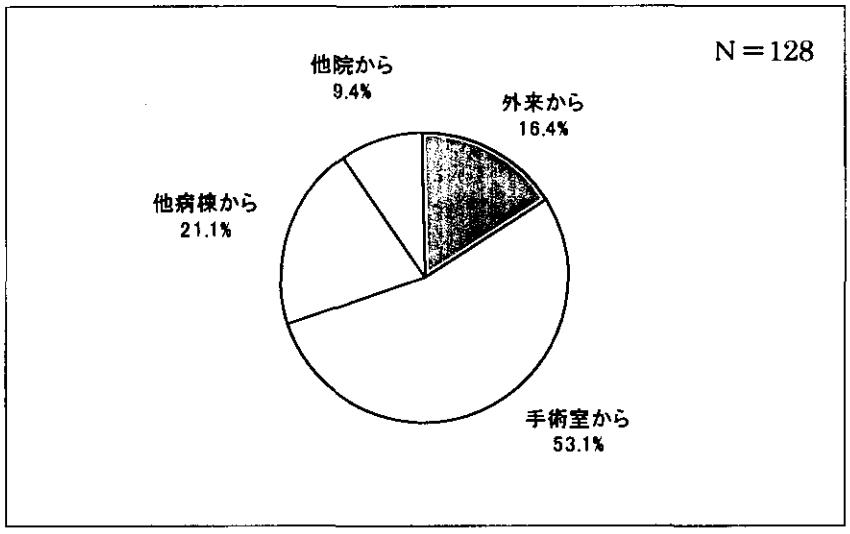
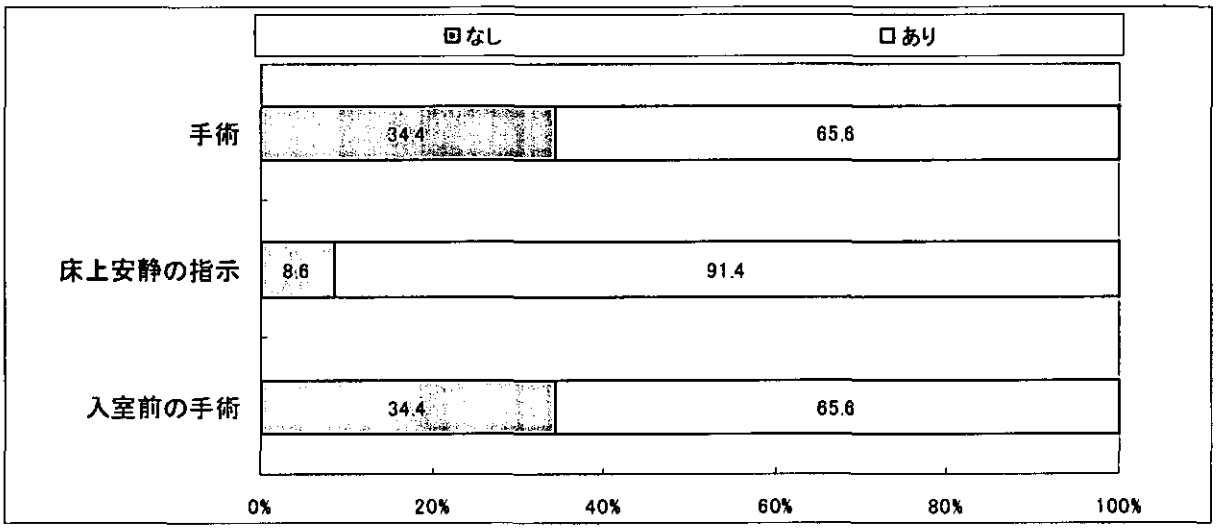


図 3-17　APACHE II スコア合計点数（年齢点を除く）が 0 の入室経路

(4) 手術の有無、床上安静の指示の有無、入室前の手術の有無について

「手術」については「あり」が 84 名（65.6%）であった。「床上安静の指示」については「あり」が 117 名（91.4%）、「入室前の手術」については、「あり」が 84 名（65.6%）であった。

図 3-18　APACHE II スコア合計点数（年齢点を除く）が 0 点の手術の有無、床上安静の指示の有無、入室前の



手術の有無入室経路（N＝128）

(5) 処置の数

患者に行われている処置の数について最も多かったパターンは、「4 つ」であり 42 名 (32.8%) であった。次いで、「6 つ」19 名 (14.8%) 、「3 つ」16 名 (12.5%) 、「5 つ」16 名 (12.5%) 、「2 つ」11 名 (8.6%) と続いた。最も処置の数が多かった患者は、「10」個で 1 名 (0.8%) であった。一方、「処置なし」は 1 名 (0.8%) であった。

表 3-37 処置の数 (合計点数が 0 の患者)

	N	(%)
処置なし	1	0.8
1つ	4	3.1
2つ	11	8.6
3つ	16	12.5
4つ	42	32.8
5つ	16	12.5
6つ	19	14.8
7つ	8	6.3
8つ	8	6.3
9つ	2	1.6
10	1	0.8
合計	128	100

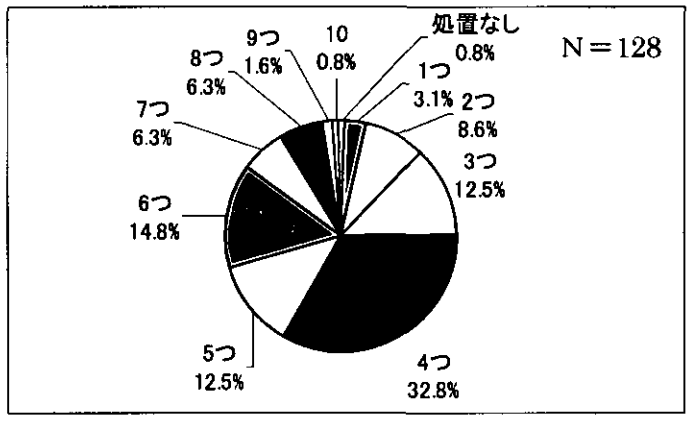


図 3-19 処置の数 (合計点数が 0 患者)

(6) 患者の状況についての項目について

患者の状況として「寝返り」、「座位保持」、「移乗」、「口腔清潔の介助」、「移動方法」がすべて自立である患者は 7 名 (5.5%) であった。介助を要する項目が 1 つである患者は 5 名 (3.9%) 、2 つが 9 名 (7.0%) 、3 つが 10 名 (7.8%) 、4 つが 14 名 (10.9%) 、5 つが 83 名 (64.8%) であった。

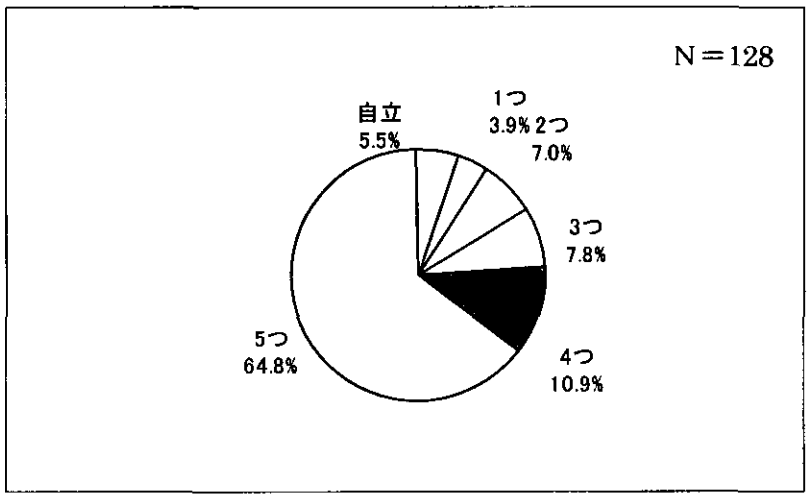


図 3-20 患者の状況について (合計点数が 0 の患者)

(7) 判断基準について

これらの患者の入室基準については、10の判断基準のうち1個満たした患者は128名中、122名で95.3%であった。また、2個の基準を満たしている患者は2名で1.5%であった。一方、基準が無い患者は、4名で3.1%であった。

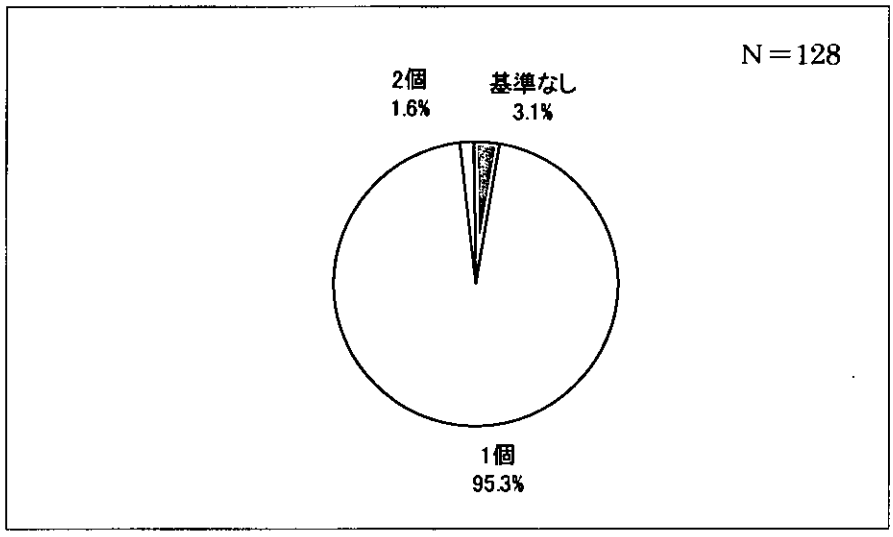


図3-21　APACHE II スコア合計点数（年齢点を除く）が0の患者の判断基準の種類